

- 問1 奈良時代、政府が一般の人々への布教を制限していた中で、民衆の間で仏教を広めるとともに、橋や道路、ため池の建設といった社会事業を行い、多くの人々の信頼を得た僧侶は誰ですか。 (2019年 佐賀県公立入試 類似)
1. 日蓮 2. 空海 3. 行基 4. 雪舟
- 問2 聖武天皇が東大寺の大仏を造立した背景や当時の社会状況について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2018年 三重県公立入試 類似)
1. 国家の力だけで建設を進めるため、行基などの僧侶が民衆に協力を呼びかけることは禁止された。
2. 天皇は、全国に国分寺・国分尼寺を建立することを命じ、東大寺をその中心に据えた。
3. この大仏は、運慶や快慶などの彫刻家を中心となって、武士の気風を反映して造られた。
4. 大仏の建立は、紫式部が源氏物語を執筆し、国風文化が全盛を迎えた時期に行われた。
- 問3 九州北部に「防人」が配置されるようになった歴史的な背景として、最も適切なものはどれですか。当時の東アジア情勢をふまえて説明したものを選びなさい。 (2015年 岡山県公立入試 類似)
1. 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗北し、日本への侵攻を警戒したため
2. 東北地方の蝦夷(えみし)を制圧するための拠点として、大宰府の機能を強化したため
3. 班田収授法に反対する九州の豪族たちが、大規模な反乱を起こす予兆があったため
4. 遣隋使の派遣を継続するために、朝鮮半島南部への軍事的な影響力を維持するため
- 問4 7世紀から8世紀にかけて、日本は唐の制度にならって、天皇を中心とする中央集権国家の仕組みを整えました。このとき制定された、刑罰に関するきまりと、政治を行ううえでのさまざまなきまりを総称して何と呼びますか。 (2017年 長野県公立入試 類似)
1. 御成敗式目 2. 公事方御定書 3. 律令 4. 武家諸法度
- 問5 律令国家が地方を支配するために整備した「国司」と「郡司」という役職について、その選出方法や役割を正しく説明したものはどれですか。 (2024年 滋賀県公立入試 類似)
1. 国司と郡司はともに都の貴族から選ばれる決まりであり、数年ごとに全国の地方を交代で回ることによって不正を防いだ。
2. 現地の有力な豪族が国司として天皇から直接任命され、そのもとで中央政府から派遣された官吏が郡司として実務を監視した。
3. 国司と郡司はともに現地の有力豪族による世襲制とされ、中央政府が関与せずに独自の徴税を行う権利を持っていた。
4. 中央政府から派遣された官吏が国司として地方を統括し、そのもとで現地の有力な豪族が郡司に任命されて実務を担った。
- 問6 律令国家が戸籍を作成して民衆を把握しようとした目的の一つは、税を確実に徴収することにあります。しかし、実際には多くの「偽籍」が発生し、戸籍上の女性の割合が不自然に高くなる現象が見られました。この現象が起きた背景についての説明として、最も適切なものはどれですか。 (2019年 岩手県公立入試 類似)
1. 男子は兵役のためにすべて都へ送られた結果、地方に残ったのが女子ばかりになり、それがそのまま戸籍に記載されたから
2. 墾田永年私財法によって私有地が認められたため、税負担の軽い女子の名義で広大な土地を所有しようとしたから
3. 男子にのみ課せられていた調・庸・雑徭・兵役といった重い負担を逃れるため、戸籍上で男子を女子として届け出たから
4. 収穫の約3%を納める租が女子には免除されていたため、収穫物を隠す目的で戸籍の性別を偽ったから
- 問7 奈良時代以降、人口の増加にともない口分田が不足し、班田収授法を維持することが困難になりました。これに対処するために出された、新しく開墾した土地の永年私有を認める法律を何といいますか。また、この法律が歴史に与えた影響について述べたものを選びなさい。 (2018年 大阪府公立入試 類似)
1. 「墾田永年私財法」により、公地公民の原則が崩れ、貴族や寺院による荘園開発が進むきっかけとなった。
2. 「三世一身の法」により、三代にわたる私有が認められたことで、口分田の返還が完全に行われなくなった。
3. 「大宝律令」により、土地の売買が自由化され、農民が自らの土地を自由に処分できるようになった。
4. 「新田開発令」により、すべての農民に新しい土地が平等に分配され、班田収授の仕組みが強化された。
- 問8 聖武天皇が、都に東大寺を、全国各地に国分寺や国分尼寺を建立した背景にある考え方として、最も適切なものはどれですか。 (2026年 沖縄県公立入試 類似)
1. 氏族の祖先を神として祀ることで、豪族たちの結束を強めようとする氏神の思想。
2. 現世の苦しみを逃れ、死後に極楽浄土へ生まれ変われることを願う浄土信仰の思想。
3. 仏教の教えによって国家を鎮め、社会の不安や疫病から国を守ろうとする鎮護国家の思想。
4. 政治を批判する勢力を抑えるため、特定の宗派のみを公認して思想を統制しようとする思想。
- 問9 奈良時代の平城京跡などからは、当時の様子を伝える多くの木簡(もっかん)が出土しています。これらの木簡には、地方から送られた「生蘇(乳製品)」などの品名や送り元の地名が記されており、荷札のような役割を果たしていたことが分かっています。このように、各地の特産物を中央政府へと納める律令制の租税を何といいますか。 (2023年 京都府公立入試 類似)
1. 庸 2. 租 3. 雑徭 4. 調
- 問10 894年に菅原道真の建議によって遣唐使の派遣が停止されましたが、その背景となった理由として、最も適切なものはどれですか。 (2017年 千葉県公立入試 類似)
1. 唐から日本に対して、国交を断絶し使節の受け入れを拒否する通告があったため
2. 日本国内で平将門の乱などの大規模な反乱が起き、派遣の予算が不足したため
3. モンゴル帝国(元)が中国大陸を支配し、日本との間の航路が遮断されたため
4. 唐の国力が衰退して学ぶべき価値が低下し、かつ往復の航海が極めて危険であったため
- 問11 日本の元号である「令和」の出典となった『万葉集』について、元号の由来に関する歴史的な意義を説明したもののとして、最も適切なものはどれか。 (2020年 岡山県公立入試 類似)
1. 中国の歴史書を典拠とする、これまでの伝統的な慣習を重んじたものである。
2. 平安時代の貴族が執筆した随筆を、初めて元号の出典に採用したものである。
3. 武士が政治の中心となった鎌倉時代の文学を、初めて典拠としたものである。
4. 日本の古典を典拠として、初めて日本の元号が選ばれた事例である。
- 問12 奈良時代の文化について説明した文章として、正しいものはどれか。 (2016年 東京都公立入試 類似)
1. 大陸から稲作の技術とともに青銅器や鉄器が伝わり、強力な勢力を持つ王が各地に現れるようになった。
2. 宋に渡って禅宗を学んだ道元が、越前国に永平寺を建立して厳しい修行による悟りを説いた。
3. 聖武天皇の遺品が東大寺の正倉院に納められ、シルクロードを通じて伝わった西アジアの工芸品などが現代に伝えられている。
4. 足利義満が明と貿易を開始し、勘合を用いることで倭寇と正式な貿易船を区別して経済的利益を追求した。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 行基	当時の政府は「僧尼令」によって僧侶が寺の外に出て活動することを制限していましたが、この人物は民衆を救うために各地で実務的な活動を行いました。その絶大な影響力と土木技術などの専門知識は、後に聖武天皇による東大寺の大仏造立を成功させるために必要不可欠なものとなりました。
問2	答え 2 天皇は、全国に国分寺・国分尼寺を建立することを命じ、東大寺をその中心に据えた。	聖武天皇は、仏教の力で国を治めるため、全国各地に国分寺と国分尼寺を設置しました。東大寺はその総国分寺として位置づけられています。選択肢にある運慶や快慶は鎌倉時代、紫式部は平安時代の人物であり、時代が異なります。また、大仏造立にあたっては、民衆に影響力のあった僧の行基が協力し、資金や人手を集める上で大きな役割を果たしました。
問3	答え 1 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗北し、日本への侵攻を警戒したため	663年の白村江の戦いで、百済の復興を支援した日本（倭）は唐・新羅の連合軍に大敗しました。その後、大陸からの報復や侵攻を恐れた中大兄皇子（天智天皇）らは、九州北部に防人や水城（みずき）を配置し、さらに大宰府を置いて国防を固めました。
問4	答え 3 律令	大陸の先進的な統治システムを導入することで、国家の基盤を固める目的がありました。「律」は社会の秩序を乱した者への刑罰を定め、「令」は官僚組織や税制、土地制度などの行政上のルールを定めたものです。これらが組み合わさることで、天皇を頂点とした統一的な支配が可能になりました。
問5	答え 4 中央政府から派遣された官吏が国司として地方を統括し、そのもとで現地の有力な豪族が郡司に任命されて実務を担った。	律令制下において、全国は「国・郡・里」の行政単位に区分されました。中央政府（都）から派遣されたのが「国司」であり、地方の行政・司法・軍事の責任者として、現地の事情に詳しい有力豪族から任命された「郡司」を指揮しました。このように、中央から派遣された官吏と地元の実力者を組み合わせることで、地方支配の安定化を図ったのが特徴です。
問6	答え 3 男子にのみ課せられていた調・庸・雑徭・兵役といった重い負担を逃れるため、戸籍上で男子を女子として届け出たから	律令制下では、戸籍に基づいて班田収授や徴税が行われていました。収穫の約3%を納める「租」は男女ともに課せられていましたが、布や特産物を納める「調」や「庸」、地方での土木作業などを行う「雑徭」、さらに軍事負担である「兵役」は、主に男子に対して課せられていました。民衆にとってこれらの負担は極めて重かったため、負担を免れるために戸籍上の性別を偽る「偽籍」という手段が取られました。これにより、税収の減少や兵員の不足が起こり、律令体制の維持を困難にさせる一因となりました。
問7	答え 1 「墾田永年私財法」により、公地公民の原則が崩れ、貴族や寺院による荘園開発が進むきっかけとなった。	当初は「公地公民」を原則としていましたが、人口増による土地不足を解消するため、743年に「墾田永年私財法」が制定されました。これにより、自分で新しく切り拓いた土地は永久に自分のものにできるようになったため、財力のある貴族や寺院が大規模な開墾を行い、「荘園」と呼ばれる私有地が拡大することとなりました。その結果、土地を国が管理して配分する口分田の仕組みは次第に機能しなくなっていきました。
問8	答え 3 仏教の教えによって国家を鎮め、社会の不安や疫病から国を守ろうとする鎮護国家の思想。	奈良時代には、疫病の流行や政治的な対立が相次いだため、聖武天皇は仏教の力を借りて国の安定を図ろうとしました。これを「鎮護国家」の思想と呼び、仏教に基づく国家体制の整備が進められました。
問9	答え 4 調	律令制のもとで成人男性に課せられた租税のうち、各地の特産物（繊維製品、水産物、加工品など）を中央政府へ納める義務を「調」と呼びます。平城京跡などから出土した木簡は、実際に全国各地から多様な産物が都へ届けられていたことを示す重要な歴史的証拠となっています。なお、田地の面積に応じて米を納めるものは「租」、都での労役の代わりに布を納めるものは「庸」です。
問10	答え 4 唐の国力が衰退して学ぶべき価値が低下し、かつ往復の航海が極めて危険であったため	9世紀後半の唐では、黄巢の乱などが起きて国内が混乱し、国力が衰えていました。また、当時の航海技術では東シナ海を渡ることは命がけの危険を伴うものでした。菅原道真は、多大な犠牲を払ってまで衰退した唐に派遣する必要はないと判断しました。この停止は、のちに日本独自の「国風文化」が発達する大きな契機となりました。
問11	答え 4 日本の古典を典拠として、初めて日本の元号が選ばれた事例である。	日本の元号は、長らく中国の古典（漢籍）を典拠として選ばれるのが通例でしたが、2019年に制定された「令和」は、日本最古の歌集である『万葉集』を典拠として選ばれました。これは確認できる限り、日本の古典（国書）から元号が採用された初めての例として、文化史的にも大きな話題となりました。
問12	答え 3 聖武天皇の遺品が東大寺の正倉院に納められ、シルクロードを通じて伝わった西アジアの工芸品などが現代に伝えられている。	奈良時代に栄えた天平文化は、仏教の影響を強く受け、かつ遣唐使によってもたらされた国際色豊かな文化です。東大寺の正倉院には、聖武天皇の愛用品に加えて、当時の唐の都である長安に集まったペルシアやインドなどの品々が、シルクロードを経由して日本に届いた状態で保存されています。他の選択肢については、稲作や金属器の伝来は弥生時代、道元による永平寺建立は鎌倉時代、足利義満による日明貿易（勘合貿易）は室町時代の出来事です。